

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市榴岡図書館
2	指定管理者	丸善雄松堂 株式会社
3	指定期間	平成29年4月1日 ～ 平成34年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 平成29年度：89,403人団体〔個人：89,235人、団体・文庫：168団体〕（前年度比 107.7%） 平成28年度：83,038人団体〔個人：82,845人、団体・文庫：193団体〕 平成27年度：82,441人団体〔個人：82,246人、団体・文庫：195団体〕</p> <p>《事業》定例おはなし会、あかちゃんおはなし会（おはなしぷりん）、特別おはなし会、赤ちゃんと楽しむ絵本とわらべうたの会、夏休み読書スタンプラリー、子ども映画会、夏休み子ども工作会、大人のための朗読会、大人向け工作会、本の福袋、選書サポーター、としょかんたんていだん、ラッキーブックをさがそう！、あなたのおすすめ本を教えてください、榴岡図書館の日（展示及びワークショップ）、歴史民俗資料館との連携事業等</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 44,410千円 （ 43,547千円） その他市が負担した費用 12,359千円 （ 11,689千円） <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 0千円 （ 0千円） その他収入 31千円 （ 39千円） <p>（ ）は前年度決算額</p>
6	利用者の声	<p>《実施状況》 利用者アンケート 実施期間：平成29年12月10日（日）～12月23日（土・祝） 回答者数：229人 利用者懇談会 開催日：平成30年2月6日（火） 参加者数：9人</p>

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき運営管理されている。全館共通の業務や行事は適切に行われている。サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	S
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書に相違なく適切である。指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取扱や情報システムのセキュリティ対策についても徹底している。不審者への対応、事故防止策等について他図書館の危機管理事例に基づき研修を実施している。災害発生時の訓練も関係機関と連携しながら適切に実施されている。	S
III 施設・設備の維持管理	建物及び設備は適切に管理されている。環境へ配慮した取り組みもなされている。備品も適切に管理されている。	S
IV サービスの質の向上	利用者への丁寧な対応を基本姿勢として、サービスの向上に努めている。利用者アンケートや利用者懇談会から把握できた利用者ニーズについて、可能な限り対応を行っている。研修を受講しやすい環境を整え各種研修へ積極的に参加するとともに、参加者による研修成果を還元する報告も行われている。近隣の学校や児童館・保育所へ催事の案内等を持参し、潜在的な利用者へのアピールに努めている。	S
V 施設固有の基準	カウンター業務は適切に行われている。書架整理や選書支援については、利用状況や蔵書構成を把握しながら蔵書管理に取り組んでいる。限られたスペースを有効に活用し、テーマ本の展示が行われており、所蔵資料の利用促進につながっている。歴史民俗資料館や児童館等の関係機関や、地域との連携事業にも積極的に取り組んでいる。各種事業参加者アンケートの意見や職員の反省をもとに、次年度の自主事業計画をより良いものにしてしようとしている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	大学との連携	仙台青葉学院短期大学への講師派遣(図書館職員を言語表現の講師として派遣し、図書館の概要や読み聞かせについて講義)や、尚絅学院大学へ講師派遣(選書や本の扱い方やおはなし会の実演等についての講義)など積極的に講師派遣を行うとともに、宮城学院女子大学から職場体験受入を行うなど将来の読書活動推進の担い手育成に寄与した。また、「夏休み子ども工作会」や「読み聞かせ講座」などの榴岡図書館主催の事業についても、大学の協力を得て実施するなど大学連携を推進した。
2	地域との連携	「みやぎの・まつり」(みやぎの区民協議会・宮城野区共催)や「エキヒガシ七夕交流会」(仙台駅東エリアマネジメント協議会主催)に参加し地域連携を図った。「みやぎの・まつり」では、子ども向けのワークショップや企画を榴岡図書館の読み聞かせボランティアの協力を得て実施した。「エキヒガシ七夕交流会」では、出張おはなし会や手遊び、輪投げなどの企画を行い、図書館のPRにつとめた。また、歴史民俗資料館との連携事業「まちあるき歴史散歩 ひがしぐち今昔」では、地元のガイドボランティアと共にまちあるきを行い、参加者の郷土資料への関心を高めた。
3	文庫版や新書の購入等による書架の充実	書架スペースの少ない榴岡図書館において、蔵書数を増やすため、文庫版や新書等サイズの小さい本を意識的に選定して配架した。また、書架の見出しを工夫したり、書架周りに手作りの飾り等を展示することで本の魅力を伝えたほか、児童書コーナーの配置を見直して、大型本を手に取りやすくするなど書架の充実に取り組んだ。
加要素評価		A

四 評価総括

《指定管理者(丸善雄松堂 株式会社)による自己評価》	
<p>平成29年度は、年度当初に作成した「基本方針」と「仙台市図書館振興計画」に基づき地域の教育機関、団体等との連携を促進し、利用者サービスの向上を図るとともに、地域に根ざし親しまれる図書館を目指して運営を行ってきた。</p> <p>1. 指定管理者の2期目の初年度ということもあり、これまでの基本業務をふまえた利用者とのコミュニケーションを引き続き重視し、さらに地域に根ざした図書館を目指すため、図書館共通の業務と自主事業を進めることができた。また、29年度からの土日の開館時間の延長についても利用者にて定着し、1日の利用者の約10%が延長した時間帯の17時から18時に来館している状況であった。資料の配架においても限られたスペースの中で少しでも蔵書数を増やすため、文庫本や新書サイズの本を意識的に選定して配架した。また、テーマを決めたミニ展示を年間を通じて行い、図書の情報提供したことから利用者の好評を得た。</p> <p>2. 自主事業は、「仙台市図書館振興計画」を踏まえ「読書推進事業」「学校連携事業」「地域連携事業」を中核として実施した。「読書推進事業」では、利用者参加型である「夏休み読書スタンプラリー」を実施した。また「あなたのおすすめ本を教えてください」で作成したブックリストは新しいジャンルとの出会いが楽しめるという例年好評で、幅広い年齢層への読書推進活動を行う事ができた。「本の福袋」も普段手に取らないジャンルとの出会いが楽しめるという毎年好評で、今年は3日間で65セット全て貸出された。その他、引き続き防災をテーマとしたおはなし会を実施した。「学校連携事業」では、平成24年度より実施している「選書サポーター」で作成したブックリストを、市内全中学校や近隣高校へ配布し好評であった。また、参加者にYAコーナーの棚づくりやPOP作成にも協力を得た。榴岡小学校でブックトークを実施し、児童たちに読書の楽しさを伝えるとともに全市の取り組みの一翼を担えたと考える。「地域連携」については、歴史民俗資料館との連携事業「まちあるき歴史散歩 ひがしぐち今昔」、仙台朗読奉仕の会との連携事業「大人のための朗読会 声に出して楽しむ読書」では榴岡図書館を利用したことのない利用者の参加も多かったが、「また参加したい」といった好評を得た。地域の行事では「みやぎの・まつり」と、仙台駅東エリアマネジメント協議会主催の「エキヒガシ七夕交流会」に参加した。「みやぎの・まつり」では子ども向けワークショップ「家族に感謝のお手紙を書いてみよう!」と「びゅーんびゅーんヨーヨーをつくってみよう!」を実施、大変盛況であった。「エキヒガシ七夕交流会」では室内で出張おはなし会、野外では「七夕えんにち」を実施した。「大学連携事業」では、宮城学院女子大学の職場体験、尚絅学院大学のワークショップを実施した。自主的に参加している学生なので熱意に満ちており、同時に職員の刺激にもなっている。その他、榴岡図書館が開館した4月30日を「榴岡図書館の日」として平成28年度に実施した事業および周辺地域の紹介やワークショップを行い、また「映画上映会」では子ども向け(年3回)の他に大人向けにも1度行った。大人向け映画上映会では参加者の希望を受けてアンコール上映を行うほど好評だった。また「夏休み子ども工作会」、「大人向け工作会」を実施した。あわせて図書館全体の共通事業である「春の子ども読書フェスティバル」内では「読書の木 花いっぱいになれ」のほか、榴岡図書館独自で「春の特別おはなし会」を、「秋の子ども読書フェスティバル」内では「ラッキーブックをさがそう!」のほか、榴岡図書館独自で「秋の特別おはなし会」と「とよかんたんていだん」を実施した。</p> <p>3. 利用実績については、利用者数や貸出冊数が前年度と比較すると微増しているが、これは、自主事業等で関連資料を展示し、ブックリストを作成、配布した結果、および時節にあったテーマ展示の展開などで利用者の読書活動をサポートしてきた結果であり、地域のイベントにも積極的に参加し図書館をPRするとともに、自主事業を図書館の利用増に結び付けるように工夫してきた結果と考える。さらに、新規団体登録が平成29年度は2件増加し、新たに登録いただいた保育園は、定例おはなし会にも不定期ではあるが参加いただいている。これは地域に積極的に外向いて行く事で地域との連携を促進してきた結果であり、日頃より図書館PRに注力して潜在的利用者の掘り起こしを行ってきた結果でもある。</p> <p>4. 教育研修は、指定管理館独自のプログラムとして「個人情報保護研修」や「著作権研修」等の内部研修の他「ライブラリアンのための実用英会話」やライトノベルやマンガの取扱いについて「子どもの本に関する研修・児童書研修会」など指定管理者主催の研修に延べ10名、仙台市図書館主催の職員研修に延べ26名、宮城県図書館主催研修など外部研修に延べ7名が参加した。研修を受講した際は、研修報告書の回覧および毎月行われている定例会で報告を行い、研修成果をフィードバックし、職員全体で共有しスキルアップを図った。さらに地震など不測の事態を想定した消防訓練を年2回、丸善安否確認システム運用訓練(全スタッフ参加)を年4回実施するなど、効果的に実施することができた。</p> <p>5. 運営の評価としては、自己評価や市民図書館による定例監査の他、第三者評価として利用者アンケートや利用者懇談会を実施。また、各自主事業ごとにアンケートを実施した。これらに寄せられたご意見を参考に、利用者ニーズを把握し課題解決に努めた。</p> <p>6. 施設管理においては、児童書コーナーの展示の配置を見直し展示に使用していたブックラックをカラーボックスに入れ替え、児童の閲覧席を増やした。この結果、大型本の取出しもスムーズかつ安全に行えるようになった。また、利用者の要望に応え女子トイレ内のベビーベッドを柵の開閉が可能なものに入れ替えたことにより、利便性を上げることができた。「仙台市公共施設点検要綱」に則して定期的な点検を行うとともに、閲覧席のクリーニング等を行い、施設の適切な維持管理を行った。</p>	
《施設設置者(仙台市)による評価》	
<p>指定管理運営6年目かつ二期目初年度となる平成29年度当初より、土日祝日の開館時間延長を開始した。また、各種読書推進事業も定着し、一層の充実が図られている。</p> <p>仙台青葉学院短期大学や宮城学院女子大学、尚絅学院大学等の複数の大学と、講師派遣や職場体験受入などで連携を図り、将来の読書活動推進の担い手育成に寄与し、若い世代の図書館利用促進につながる取り組みは高く評価できる。</p> <p>また、「みやぎの・まつり」や「エキヒガシ七夕交流会」等地域のイベントに積極的に参加するなど地域団体やボランティアとの連携を深めながら、地元住民へのPRも積極的に実施し、平成29年度の利用者数は、前年度比107.7%と増加するなど、図書館の利用促進に効果を上げている。</p> <p>さらに、館内の配置の工夫や、文庫本や新書サイズの本の意識的な配架による蔵書数の増加、テーマ展示の実施等により、限られたスペースの中でも魅力的で快適な館内の維持につとめているほか、利用者の要望に応じてより使いやすいベビーベッドへの入れ替えを行うなど、利便性の向上を図っている。</p> <p>今後も、民間のノウハウを生かした図書館利用促進にかかる事業実施に期待する。</p>	総合評価
	S